



ホームページが新しくなりました。QRコードを読み取り御覧ください。スマイル附属情報を様々に発信中です！

令和4年度 附属小学校だより

スマイル²ふぞく



第1号 令和4年4月22日（金） 校長 古野 祐一

今年度の発信者は、この4人です！

- ・附属の芯柱として、広い度量で全職員・児童に寄り添う「橋田教頭」
- ・附属の人材育成を担い、人をつなぎ人とつながる「吉田主幹」
- ・附属のデジタル化を推進し、業務の効率化を加速する「才木教務主任」
- ・今年度もスマイル附属に向かって猛進する校長の古野でございます。2年目となり「スマイル×スマイル＝スマイルの二乗」を目指し、表題に「2」を加えました。北斗のスマイルを、この新メンバーでお伝えします。



校長：古野祐一



教頭：橋田晶拓



主幹：吉田公悦



教務：才木崇史

「6年学習」が始まりました！

附属小には「6年学習」という言葉があります。目標に向かって全力で取り組んだり、学校や下級生のために動いたりする6年生の姿を見て下級生が学んでいく伝統があるからです。「自分たちの学校は自分たちで創る」というリーダー6年生の矜持が脈々と受け継がれています。

6年生が、早速見せてくれた頼りになる三つの姿を紹介します。

- ①入学式を迎えるための会場設営と環境美化。
 - ・校舎内外を掃き清め、体育館にはシートを引き、メジャーを使って椅子の縦横を正確に揃える会場づくり。年度初めの大事な大仕事は大成功。美しい環境で入学式を実施できました。
- ②1年生の給食準備と片付け、食べ方アドバイス。
 - ・給食初日から3日間は、6年生がサポートします。最初のメニューは人気のカレーです。黙食の中で、お互いに笑顔を交わす1・6年パートナーを微笑ましく思いました。
- ③伝統の朝掃除。
 - ・5年間の朝遊びを卒業し、最高学年の務めである朝掃除に切り替わりました。黙々と掃き清める姿は凛々しく、北斗のリーダーとして誇らしく思います。

令和4年度は、学年目標「尽くす」のリーダー6年生と共に、北斗の学校を盛り上げていきます。



①入学式の準備に集中する6年生。



②1年生と一緒に黙食する6年生



③朝掃除で玄関を清める6年生

※裏面に続きます！

笑顔の支え

4月11日新たに98名の北斗の仲間が入学してきました。入学したばかりの1年生の風物詩が下校指導です。本校は長崎市の各方面から登校しております。バスを乗り継ぎ1時間以上かけて登校してくる子どももいます。そんな北斗の1年生は、どのように下校しているのでしょうか。

1年生の下校時には担任も含め随時6名以上の教職員が関わります。まず、1年生の子どもがわかるように行き先別に色で分かります。次に、徒歩で下校する子どもは、通学路を守り、安全に帰宅できるように、教職員が先頭を歩き並んで下校します。

1年生の下校指導

バスや電車で下校する子どもには、確実に乗車できるように、行き先を一緒に確かめながら安全に乗車を促したり、一緒に乗車し、バスの中でのマナーを指導したりしています。

このように、1年生担任、授業が入っていない教職員、職員室組で1年生の安全安心に向けた営みをおこなっています。

保護者の皆様には、交通指導をはじめ、様々な場面で子どもの安全安心を守っていただいております。心より感謝申し上げます。「スマイル附属」教頭のコーナーでは、教職員の営みを保護者の皆様にお伝えしていきます。

教頭 橋田 晶拓

北斗の学び

学級の学びを創る

子どもが下校した放課後。教室の黒板の端に「～たいが言えます。」「この前は～をしましたよね。」と書かれています。これは、子どもが発した自然な言葉です。と同時に、学級の学びを創るために大切な言葉なのです。

4月、本校では、学級独自の学びを創るために必要な言葉を子どもたちと共に確かめます。そして、子どもたちが授業の中で、自然とそれらの言葉を使うことができるように、教師は、授業展開を工夫しています。

今、我が国では「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指しています。この「協働的な学び」とは、学習者同士が意見の交換など対話を通して教え合い、お互いを高め合う学びのことです。

「協働的な学び」をよりよく進めていくためには、子どもが共通認識できる言葉を使うことが大切です。だからこそ、それらの言葉を自然に使えるようにしながら、学びを深めていくようにしています。

5月2日(月)の授業参観では、友達や担任と学級の学びを創っているお子様の姿をどうぞご覧ください。

このコーナーでは、子どもたちの学びの様子や教師の授業作りについて保護者の皆様にお伝えしていきます。

主幹教諭 吉田 公悦

潜入！附属小リアルスコープ

たった一つ、されど一つのピンマイク

「今日から皆さんは附属小学校の仲間。『北斗の子』になったのです。」北斗の子はみんな、このようなお祝いの言葉で迎えられ、附属小学校での生活をスタートさせます。今年の入学式でも、6年1組の濱崎さんが、気持ちを込めたお祝いの言葉を1年生に向けて送りました。

ここで、意外と重要なのが「ピンマイク」です。もしも声が聞こえなかったり、雑音が入ってしまったりすると、せっかくのお祝いの言葉が台無しです。そこで、スイッチの入れ忘れを防ぐべく、あらかじめオンにしておきます。しかし、オンのままでは雑音が入ってしまいますので、音量はゼロの状態にしておき、言葉を述べる時のみ音を上げるのです。そのため、実は体育館放送ブース内では「代表児童のタイミングを見計らって合図を出す役」と「合図に合わせて音量を調整する役」が緻密に連携して動いています。

このように、このコーナーでは、表には見えない学校行事の舞台裏を御紹介したいと思えます。

ピンマイクのように、細かいところへのこだわりをもつことで、すべての北斗の子にとって、少しでも心地の良い学校生活につながれば幸いです。

教務主任 才木 崇史